『中国人慰安婦』について

島田 洋一(福井県立大学教授)

以下、同書の特徴を箇条書き的に記し、コメントを付す。

原題

Chinese Comfort Women: Testimonies from Imperial Japan's Sex Slaves (Oxford Oral History Series), Oxford University Press (June 2, 2014)

元「慰安婦」らの証言を多数集め、「オックスフォード聴き取り記録シリーズ」の1冊 という体裁。

「オックスフォード」の権威を借りつつ、証言に対する裏付け調査、史料批判が不十分 で研究とは言えないとの批判に予防線を張ったものとなっている。

著者

Peipei Qiu (培培丘) is Professor of Chinese and Japanese and Director of the Asian Studies Program at Vassar College.

Su Zhiliang (蘇智良) is Professor of History and Director of the Research Center for

Chinese "Comfort Women" at Shanghai Normal University (上海口范大学).

Chen Lifei (陳麗菲) is Professor of Journalism and Deputy Director of the Center for Women's Studies at Shanghai Normal University.

証言集めと執筆作業は中国の大学教職員である蘇智良、陳麗菲が担当。英訳作業および 英語での対外発信は米国ヴァッサー大学(ニューヨーク州)教授の Peipei Qiu(培培丘、 女性)が担当している。

パイパイ・チューは、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際関係大学院米韓研究所(The U.S.-Korea Institute at SAIS、ワシントンDC)主催の慰安婦シンポジウムに複数回パネ リストとして参加(2回分の参加案内を章末に【参考】として掲げた)。

SAIS は北朝鮮画像分析の 38 North グループ等でも知られる権威ある研究センター。 同米韓研究所研究員のデニス・ハルピン元下院外交委員会スタッフは、ミンディ・カト ラー(慰安婦問題等で熱心に反日活動)と親しい。

米国の首都ワシントンにおける「中国人慰安婦」プロパガンダでは、今後もハルピン、 カトラー、パイパイ・チューが中心的存在となるか。

本書が主張する点(丸括弧内はページ番号。*に続く太字部分は筆者のコメントである) ・2012 年 5 月 6 日、4 人の日本の国会議員がニュージャージー州パリセイデス・パーク (Palisades Park, New Jersey)を訪問し、慰安婦碑の撤去を要求。こうした動きに危機 感を持った。(xix)

・日本軍による慰安婦強制連行の有無が重要論点
 1992年の吉見義明教授の発見が画期だった。(3)
 Cf. 朝日の1992年1月強制連行プロパガンダ。(160)吉田清治証言(217)。

・Sarah Soh は慰安婦研究で重要な貢献をしたが、その3段階論は問題(4,9)
 ①営業許可慰安所 ②準軍事慰安所 ③犯罪的慰安所(日米戦争以後)

ソーは、朝鮮人、日本人慰安婦に焦点を当て、慰安所をレイプ・センターと呼ぶのは「党派的偏見」とするが、被占領国家から慰安婦にされた女性とりわけ中国人慰安婦の状況を 考慮に入れていない。最近の中国での調査では、総数 40 万人の慰安婦中、約半数 20 万人 が中国人。(4)

・中国人慰安婦の過半数は日本軍に拉致された。(4) 敵国人(enemy nationals)であるため植民地の慰安婦よりひどく扱われた。 戦後は、敵国に協力した女として、悪名高い(notorious)文革期などに迫害を受けた。(5)

・南京の少女から聞き取ったというジョン・マギー牧師の証言(家族を日本軍に虐殺され、 本人は繰り返しレイプされた)を詳しく引用。(7-8)

・中国人女性を部隊で慰み者にしたという Tomishima Kenji 伍長の回想引用。(8)

・中国での日本軍慰安所は 1932 年から。南京大虐殺(Nanjing Massacre)以後急速に増 える。部隊レベルの急ごしらえ施設(improvised comfort facility)も多かった。自宅に監 禁され、慰安婦にされたケースも多い。逃亡を試みると家族も含め拷問や斬首。対価はな し。逆に解放の条件に日本軍に身代金を取られたケースもあり。(10-11)

* 金銭的対価はなく (no monetary payment)、単なるレイプだったという点を繰り返し強 調している。

・敵国女性に対する扱いは明らかに戦争犯罪。(12) 占領地域では女性の大量拉致(mass abduction) が行われた。(13)

*実態について研究が進み、軍による組織的強制連行がなかったことが明らかになっている韓国人、日本人慰安婦との違いを強調している。

・蘇智良の慰安婦数計算式について

期間は 1937 年から 1945 年。日本の兵士総数 300 万人。兵士 29 人につき 1 人の慰安婦 (ニクイチ)、慰安婦の「交代率 (replacement rate)」は 3.5-4.0 と想定。(38)

蘇智良による慰安婦数は、3000000÷29×4=41万3793人

著者らは秦郁彦の推計を批判。秦は交代率を 1.5 と想定。また、損耗率(死亡率)は日 赤従軍看護婦の 4.2%を参考に、「慰安婦の 9 割以上が生還と推定」している。 *蘇智良は、「交代率(replacement rate)」を奏より高く設定(約2.5倍)した理由として、(廃業の自由があったからではなく)日本兵が「処女と新顔」(virginity and novelty) を好んだこと、肉体的に弱った者を殺害したことを挙げている。

その論拠とするため、9 才、13 才の少女を集団レイプした、単なる消耗品のごとく処分 したなどの「証言」を多数載せている。残虐冷酷な性暴行、殺害の「事例」が延々と述べ られる(39-40, 67-68, 第 2 部の 12 人の中国人元慰安婦〈75-148〉の証言も同様)

【記述例】山西省盂県(うけん)で200人以上の中国人女性が日本軍に拉致された。1990 年代はじめにジャーナリスト Li Xiuping が行った聞き取り。出典は Li の中国語文献。 (38-39)

南京大虐殺中に日本軍は数万人の女性を拉致した。出典は、蘇智良の中国語文献。(39) 拉致された最も若い女性は9才。出典は、Wen Yan の中国語文献。(39)

1939 年 10 月日本軍第 11 軍が湖南省岳陽県に慰安所を設けたが、その後も日本軍の レイプ、地元女性への襲撃は続き、1941 年 9 月から 10 月にかけて靖州県、Xinxiang township などで女性の大量殺害、集団レイプ、余興に中国人親子に性交を強いるなど の例があった。出典は、Tang Huayuan, Zhang Huaiqing らの、いずれも中国語文献。 (67-68)

・約 40 万人という数字はあくまで長期にわたって性奴隷として拘束された女性の数であって、日本軍によって性暴行を受けた中国人女性は遙かに多いと強調。(38)

*その場限りのレイプより悪質な長期・組織的な集団レイプが「慰安婦」という位置づけ になっている。本書では、「慰安婦」という用語が、ほとんどの場合、慰安所で性的サービ スを提供する女性という通常の意味で使われていない。

真偽は別として、「中国における日本軍の性暴力証言集」とでもすべき内容でありながら、 それでは慰安婦「ブーム」に乗れず、また、慰安婦問題の拡大という政治目的も達成しに くくなるため、「中国人慰安婦」というタイトルにしたと言わざるを得ない。

・女性を拉致するに当たって中国人の協力者を用いるのが普通であった (commonly used) としている。(42)

*ならば、膨大な数の中国人が性犯罪、戦争犯罪に手を貸したことになる。

・1938年初め以降、日本軍は中国女性の奴隷化と共に、朝鮮人、日本人、台湾人慰安婦の 中国大陸への運び込みを強めた。その理由は、占領地での女性の拉致は地元民の反乱を呼 ぶかも知れず、また中国人慰安婦は軍事情報を中国軍に渡す恐れがあったからという。(31) *それなら1937年以降、中国人慰安婦の数は減少していなければおかしいが、同率で増え 続けたとの仮定の下で中国人慰安負数を計算している。矛盾。

・なぜ、中国人慰安婦問題が近年まで浮上しなかったのか。家父長的イデオロギーが浸透 する中国社会では、女性の純潔は女性の命より思い。この家父長的イデオロギーが政治的 偏見と結びつき、生き残った慰安婦は非道徳な上、国を裏切った者とされた。 慰安婦だったことが知られると、辱められ迫害された。日本兵と「寝た」かどで北方の 強制労働に送られた例など記述。「反革命」の烙印も押された。中国共産党政権下の戦後の 迫害で自殺した者もいる。最も犠牲を被った国である中国で動きが遅かったのは、こうし た理由による。

* 不幸な女性たちを理不尽に迫害した中国社会、中国共産党の責任は大きいことになる。 現在の中国共産党が、自らの過去を捨象して日本非難にいそしむのは、著者らの立場から は許されないのではないのか。

【参考】

(1) 2016 年 3 月 1 日開催の「未完の謝罪―戦時アジアの帝国日本性奴隷」シンポジウ ム案内(SAIS米韓研究所主催)

The U.S.-Korea Institute at SAIS and Asia Policy Point invite you to Unfinished Apologies: Imperial Japan's Sex Slaves of Wartime Asia

Tuesday, March 1, 2016 9:00 AM - 3:00 PM

Kenney Auditorium Johns Hopkins SAIS 1740 Massachusetts Ave, NW Washington, DC 20036

The U.S.-Korea Institute at SAIS and Asia Policy Point invite you to attend a discussion on the unexamined and unresolved history of Imperial Japan's system of sex slavery in wartime Asia. The panels will provide an overview of how the system came to be and how it was managed, discuss new research on the non-Korean Comfort Women, and bring the legacy of the Comfort Women system into contemporary understandings of conflict resolution and violence against women in warfare settings.

Panel 1: Framing the Comfort Women History - Japanese Comfort Women and their Antecedents

- Carolina Norma, Lecturer in the Master of Translating and Interpreting degree in RMIT's School of Global, Urban and Social Studies, Melbourne, Australia
- Discussant: Katharine H.S. Moon, SK-Korea Foundation Chair in Korea Studies and senior fellow at the Brookings Center for East Asia Policy Studies

Panel 2: The Comfort Women of Japan's Occupied Asia

- Griselda Molemans, Dutch researcher and investigative journalist, founder of the Task Force for Dutch Indies War Reparations (Dutch acronym: TFIR; Task Force Indisch Rechtsherstel)
- Hilde Janssen, Dutch Journalist and author Schaamte en Onschuld [Shame and Innocent] and Troostmeisjes/Comfort Women
- **Peipei Qiu**, Professor of Chinese and Japanese on the Louise Boyd Dale and Alfred Lichtenstein Chair, Vassar College
- Evelina Galang, Professor of English, University of Miami
- Caroline Norma, RMIT, Melbourne, Australia
- Moderator: Yukiko Hanawa, Department of East Asian Studies, New York University

Keynote: Women in warfare, how far have we come?

• TainaBien-Aime, Executive Director, Coalition Against Trafficking in Women

Booking signing with authors to follow:

Caroline Norma, The Japanese Comfort Women and Sexual Slavery during the China and Pacific

Wars

Peipei Qiu, Chinese Comfort Women: Testimonies from Imperial Japan's Sex Slaves
M. Evelina Galang, Angel de la Luna and the 5th Glorious Mystery
Hilde Janssen, Troostmeisjes/Comfort Women
Margaret Stetz, Legacies of the Comfort Women of World War II

(2)2014年10月21日開催の「中国人慰安婦の語られざる話」シンポジウム案内(SAIS 米韓研究所主催)

The Untold Stories of Chinese Comfort Women

October 21, 2014 12:00 pm - 2:00 pm

The US-Korea Institute at SAIS and Asia Policy Point present:

THE UNTOLD STORIES OF CHINESE COMFORT WOMEN

Featuring:

Dr. Peipei Qiu

Louise Boyd Dale and Alfred Lichtenstein Professor of Chinese and Japanese and Director, Asian Studies Program, Vassar College

With welcoming remarks by

Dr. Jae H. Ku

Director, US-Korea Institute at SAIS

And introduction by

Dennis Halpin

Visiting Scholar, US-Korea Institute at SAIS and former House Foreign Affairs Committee staff

Dr. Peipei Qiu will discuss her new book, <u>Chinese Comfort Women: Testimonies from Imperial</u> <u>Japan's Sex Slaves</u> (Oxford Oral History Series), followed by a panel discussion on the legacy of Comfort Women with **Dr. Peipei Qiu**, **Dennis Halpin**, and **Mindy Kotler**, Asia Policy Point, and moderated by **Jenny Town**, Assistant Director, US-Korea Institute at SAIS.

A light lunch will be provided. This event is open to the public and press. Lunch will start at 12:00pm; program will start at 12:30pm. Please RSVP below.

Dr. Peipei Qiu is Louise Boyd Dale and Alfred Lichtenstein Professor of Chinese and Japanese and Director of Asian Studies Program at Vassar College. She has received degrees from Peking University (B.A. in Japanese and M.A. in Japanese Studies) and Columbia University (Ph.D. in Japanese Literature) and has focused her research on comparative studies of Japanese and Chinese literature, women in East Asian literature and societies, and Taoist influence in Japanese and Chinese literature and cultures. She is the recipient of a number of grants and awards, including the Japan Foundation Fellowship for Professional Researchers, Japan Foundation Dissertation Research Fellowship, Japan Society for the Promotion of Sciences Fellowship, and the National Endowment for Humanities Fellowship (US). Professor Qiu is the author of *Bashô and the <u>Dao: The Zhuangzi and the Transformation of Haikai</u>, and <u>Chinese</u> <u>Comfort Women: Testimonies from Imperial Japan's Sex Slaves</u>. Her scholarly articles and translations have been published in English, Chinese, and Japanese.*